

# 霧ヶ峰基金会報

2008年5月号(通算23号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0061 長野県諏訪郡下諏訪町3236番地 Takafactoryさま2階

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



## Spring ephemeral ~スプリング・エフェメラル~

ギリシャ語の「存在する期間の短いもの、はかないもの」という意味の「ephemera」を語源にもち、日本語では「春のはかない命」とか「春の妖精」などと訳されたりします。

早春、樹木の葉が茂り草の丈が伸びる前、目覚めたばかりの昆虫たちに受粉をしてもらうために、彼らはその体とは不釣り合いほどの大きな花をつけて現れます。彼らの多くは多年草です。他の草木が伸びる前に地上に現れ、体を広げ日の光をめいっぱい浴びて栄養を蓄えます。他の草木が伸びる初夏には地上部は枯れ、また春に芽を出すのです。ほんの短い期間にエネルギーを放出し、また蓄えをつくり、何年も生きつづける彼らの生活には、実は「はかなさ」よりも「強さ」をかんじます。

彼らの姿が見えなくなる頃、霧ヶ峰は初夏を迎えます。

## 八島ヶ原湿原外周および御射山・沢渡周辺の調査を開始いたします。

NPO法人霧ヶ峰基金では、地権者の方をはじめ関係機関のご理解・ご協力をいただき、平成20年5月より5年間の予定で、八島ヶ原湿原周辺と御射山・沢渡の植生及び水質の調査を開始いたしました。(調査ルートは右図の通り)

調査は、調査ルート沿いにある草本の蕾・花・実などの有性生殖器官の見られる植物の種名の記録を行い、生態系の基盤をなす植物相を把握すると共に、人為や外来種の影響を把握します。

また同時に水環境調査を6箇所(雪知らずの沢、観音沢、御射山、沢渡など)で実施し、水位、流量、透視度、pH、CODなどを測定し、水環境の特性や土地利用の影響等を把握します。

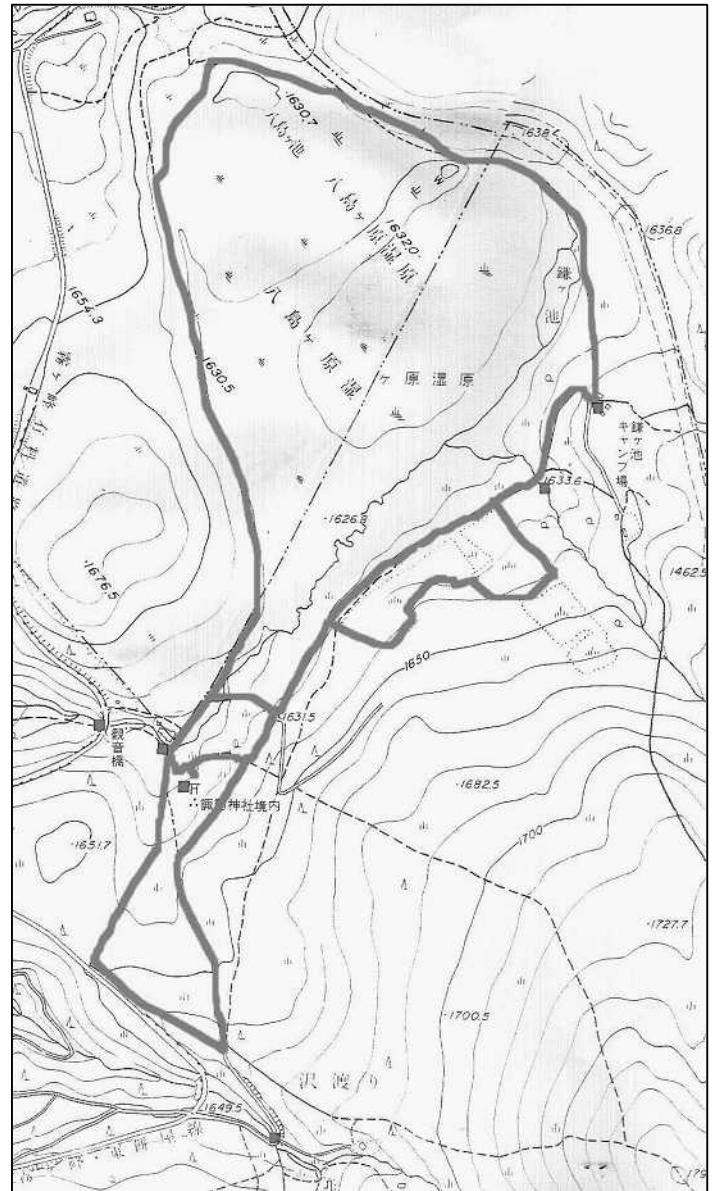
この調査は、知らず知らずのうちに環境が変化し失われていく霧ヶ峰の草原景観について目を向け、調査を通じて多くの方が、霧ヶ峰高原の持つ人間とのかかわりの歴史や生態系の変化について知ること、霧ヶ峰高原の資源的価値を地域住民が認知し、その価値の向上及び霧ヶ峰高原の利用と保全に寄与することが目的としています。また長期的に調査を行うことで、その情報を経年で蓄積して目に見える形で変化を認識することが可能であり、今後の霧ヶ峰高原の将来を考えるために役立てることができると考えています。

同時に、保全計画や利用計画の参考データとして活用されることで、観光客への体験型プログラムの提供やエコツアーの素材となり、霧ヶ峰及び諏訪地域での滞在時間の延長が期待できるなど、地域経済の発展や環境への負荷軽減・減少などに貢献できるような施策に反映できるものと考えております。

本調査事業については、将来的に会員の皆さまをはじめ、市民参加を視野に入れた活動と位置づけています。当面は平成25年までを計画しておりますが、調査の経過でNPO法人霧ヶ峰基金のライフワークといたしたく考えております。

調査方法は特別な専門的知識を必要とせず、誰でもが参加できる手法となっており、同じ精度で長くデータを取り続けることに重きを置いています。

調査活動へのご参加につきましては、準備が整い次第、順次ご案内を差し上げて、皆さまのご協力をお願いし



てまいりたいと思います。

なお、調査結果につきましては地理情報データとして整え、霧ヶ峰の環境保全に活用いただけるよう公開すると共に、環境省が実施する「モニタリング1000里地調査」に提供し日本国内の生物多様性保全のために役立てられます。

皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(担当：降旗香代子)

### <実施レポート>

5月24・25日に調査を開始しました。今回は設定ルートや調査手法記録方法の確認などを行ないながら、植物相と水質データを取っています。



24日午後より降雨があり、翌日午前中も天候が思わしくなく、2日間に分けて実施しました。

調査区域内で有性生殖器官(蕾・花)の確認できた草本は外来種も含めて19種。やっと春を迎えたところでまだ種類は少ないですが、6月はぐんと種類が増えると思われます。

一部についてはGPSにより座標を記録しました。



# 草原性鳥類への影響緩和に留意した火入れ事業の提案

霧ヶ峰ネットワーク 長内 健一

火入れは草原の代表的かつ伝統的な管理手法であり、草原の景観や生態系を保全するために必要な行為です。また、草原内で繁殖する草原性鳥類にとっても、繁殖適地となる草原を質的・量的に保全していくという長期的な観点から、火入れは重要な草原管理手法の一つなのですが、短期的には草原性鳥類の繁殖に影響を与える可能性があると考えられます。草原性鳥類は霧ヶ峰の草原景観の一部であると同時に、草原生態系上重要な地位を占めており、なるべく火入れによる影響の回避・低減に努めることが望まれます。



環境影響評価（環境アセスメント）では、事業が環境に与えると予測される影響を緩和するための環境保全措置（ミティゲーション）を、回避、低減、代償の大きく3つの段階に分けて検討します。

回避：対象地における事業全体或いは一部を中止する

ことにより、影響全体を回避する。

低減：事業規模の縮小や内容の変更等により、影響をなるべく最小化する。

代償：事業の影響によって失われる環境と同質の環境を他の場所に造成（整備）し、影響を代償する。

これらを霧ヶ峰の火入れ事業に当てはめると、草原性鳥類への影響緩和としては以下のような例が考えられます。

回避：草原性鳥類の繁殖期（4月下旬～8月）を避け、秋に実施する。

低減：実施面積や、同一エリアへの実施頻度を制限する。（春に実施する場合は）野鳥の繁殖最盛期（5～7月）を避ける。

代償：雑木処理作業により草原性鳥類の繁殖適地となりうる草原を質的・量的に拡充する。

今後、霧ヶ峰のエコツーリズム推進にあたり、火入れと草原性鳥類の事例に限らず、景観・生態系・文化・歴史の保全に配慮した事業計画が、それらを観光資源として活用する前提として必要不可欠です。

そのためにも、草原性鳥類に関して言えば、まずは、火入れ実施区内における草原性鳥類の繁殖状況調査により、草原性鳥類への影響を検証することが必要と考えられます。

霧ヶ峰ネットワーク

<http://homepage2.nifty.com/kiri-net/kiri-net.html>

## いつもあたたかいご支援、ありがとうございます！

2008年4月1日～4月30日までの間に、2,000円の寄付金をいただきました。これらの寄付金は、NPO法人霧ヶ峰基金の活動を通じて、霧ヶ峰高原の環境保全活動に活用されます。

あたたかいご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

。\*。霧ヶ峰基金は活動の趣旨にご賛同してくださる方の寄付金を、随時受け付けております。\*。

金額は1円以上から、下記の郵便口座までお願いいたします。

全国の郵便局からいつでもお手続きいただけます。（手数料はご負担ねがいます。）

・口座番号 00520-7-44684

・加入者名 特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

ご寄付をいただいたかたのお名前の取り扱いについて

2008年4月より寄付金をいただいたかたにつきまして、金額に関わらず、ご本人様が希望されない場合を除き、会報上にてお名前をご紹介させていただきます。あらかじめご了承ください。（お名前のご紹介を希望されない方は、その旨をお知らせください）

## 活動記録（2008年4月1日～4月30日）

4月	12日	・会員向け説明会 準備・打ち合わせ
	19日	・2007年度事業経過報告及び2008年度事業説明会
	17日	・諏訪アライアンスプロジェクトさいか 打ち合わせ
	20日	・「～ぶらりしもすわ～三角八丁」 出展
	26日	・会報発行打ち合わせ
	29日	・会報2008年4月号発行

（2008年4月末日現在） 個人特別会員53名 個人一般会員71名 法人会員4団体 正会員10名



NPO 法人霧ヶ峰基金の活動を支援してくださる法人会員のみなさまです。



株式会社エルシーブイさま



信州総合開発観光株式会社さま



株式会社永田製作所さま



株式会社クリンビーさま

NPO 法人霧ヶ峰基金は活動を支援してくださる企業・団体さまのご入会を随時受け付けております。

お問い合わせはNPO 法人霧ヶ峰基金事務局 (e-mail kirigamine.kikin@gmail.com.) にて承ります。

## 電話番号が変わります。

都合により、2008年6月1日より電話番号と電子メールアドレスが以下のように変更になります。

お手数をおかけますが、どうぞよろしくお願いたします。(おかけ間違いのないよう、ご注意ください。)

電話 090-9668-3380

電子メールアドレス kirigamine.kikin@gmail.com

## 火入れに参加しました。

5月4日(土) 諏訪市が実施した「霧ヶ峰高原草原再生火入れ事業」に、消火班として参加いたしました。

今回の火入れ区域は、踊場湿原北側の斜面約13ha。平成17~19年に諏訪市が雑木処理を施した場所です。

作業へは霧ヶ峰に関わる市民ボランティアや団体など約400名が参加し、消火作業に当たりました。



午前8:00の開会式のあと、草原にたいまつで火が入れました。

火入れ前の一週間にまとまった降水はほとんどなく、草原に長年積もった枯れ草や枝は乾燥していました。また、やや強めの南風が吹いていました。

火の回りは思いのほか速く、勢いも強く、斜面上端で消火作業を担当していた私達は煙で真っ白に覆われ、すぐとなりの人も見えなくなる一幕もありました。

草原の火が治まったのは、作業開始から約2時間後。あたり一面黒々とした光景になりましたが、2週間後にはススキやニッコウキスゲが芽吹いていました。

かつて「(火入れのときは)夜、霧ヶ峰方面を見ると真っ赤にみえた」といわれた規模で行なわれていたところは、いったいどんな様子だったのだろうと、興味をそそられるところです。



## 鋭意更新、情報発信中です

ブログ「霧ヶ峰のWA!」(<http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>)では、霧ヶ峰基金の最新の活動情報やご案内を随時掲載しております。どうぞご愛読ください。

携帯電話からもご利用いただけます。(パケット通信料がかかります。ご注意ください)

## オリジナル日本てぬぐい、第3弾制作中。

現在、「かまわぬ」製の霧ヶ峰基金オリジナル日本てぬぐいを制作中です。

今年のデザインモチーフは「コウリンカ」。

火入れや草刈りの行なわれなくなった霧ヶ峰では、草原の環境変化と共に少なくなりつつあるといわれ、霧ヶ峰の晩夏を彩る、ちょっとキッチュなキク科の植物です。

「かまわぬ」は日本手ぬぐいの専門店。多くの人の手を経ながら、注染という昔ながらの技法で一枚一枚職人が染め上げて、制作されます。

手間と時間をかけた日本の伝統と霧ヶ峰のコラボレーション。

日々の暮らしのうらおいに、お友達へのプレゼントに、どうぞお役立てください。

(予価1200円 特別会員・法人会員価格は1割引。割引購入時は事務局に直接ご注文ください。)

このオリジナル日本手ぬぐいの収益はNPO 法人霧ヶ峰基金の活動を通じて、霧ヶ峰の環境保全活動やエコツーリズムの推進活動に活用されます。ぜひ、ご協力をお願いいたします。



**編集後記** 事務局は総会の準備におおわらわです。そして、その後に控える県への提出書類や法務局への手続きの準備や問い合わせ...、「同じような書類が何でこんなにいるの!?!」と思いつつわめきつつ、「2回くらい経験すれば慣れますヨ」とご近所にある別のNPO 法人の事務局さんになだめ(?)られ...。そういえば、2回目の今年はずこし手馴れてきたような気がします。か